

さあ 2学期です！ 泉北夏季教研 井崎孝子さん 子どもたちと実りある学びを作しましょう

命の尊さを学ぶ授業づくり

～沖縄平和学習をとおして～



会場は沖縄いっぱい
会場に入ると、壁には沖縄で撮影された写真がたくさん貼りめぐらされ、新聞やパンフレット、絵本など数々の資料がひろげられ、沖縄の音楽が流れ、気分はいつきに沖縄。写真や資料を見ているうちに、興味や疑問もわいてきて、自然と気持ちが沖縄へ向いていき

八月六日(土)午前10時から、和泉コミュニティセンターにて、「泉北夏季教研」が行われました。
今年の泉北夏季教研は、元和泉市小学校教員で、現在も和泉市内の小学校でゲストティーチャーとして平和学習に取り組んでおられる、井崎孝子先生に「命の尊さを学ぶ授業づくり～沖縄平和学習をとおして～」というテーマで、ご講演いただきました。
七十一年前、広島に初めて原子爆弾が投下された八月六日、アメリカの大統領が初めて広島を訪れた年に、平和学習の授業づくりを学ぶだけでなく、平和について考え合える大切な時間となりました。

ました。こういった子どもたちの気持ちをつかむ環境づくりも大切だと改めて実感しました。

授業の流れを 模擬授業形式で

沖縄いっぱいの会場は、沖縄いっぱいの教室となり、夏季教研参加者は、授業を受ける子どもたちになりました。授業は3時間の組み立てになっていのですが、今回は短縮した形で展開してくださいました。

井崎先生は、最初に沖縄のイメージを子どもたちになぞねたり、沖縄に関するクイズを出したりして、楽しい雰囲気の中で授業を進めていかれました。

しかし、沖縄戦や対馬丸、集団自決などについて、スライドで資料を映しながら

話をされていられるころには、授業の流れを学んでいるというよりは、まだまだ知らなかった沖縄の歴史を学んでいる、話に引き込まれている参加者の姿がありました。さらに、DVD「もつ一つの沖縄戦 あの時そんなこともたちがいた」を観ると、受けとめきれないような重さを感じました。

最後に、現在の沖縄の様子についてもお話しくださいました。

平和の大切さ、命の尊さを改めて感じ、どのように子どもたちに伝えていけるかを考え合えた時間となりました。

感想から

長年にわたって沖縄を訪れ、貴重な資料や現地の方々の生の言葉を聞いてこられ、沖縄の現状をきちんと分析された授業を創られていて、本当にすごい報告をきかせてもらえました。戦争の時の悲惨な捨て石となった事実、その上、戦後も日本国民でありながら、ひどい差別を受けている沖縄のことを学ぶことは、とても大切な報告をきいて強く思います、ありがとうございます。

沖縄についてはまだまだ知らないことが多く、もっともつと私自身が勉強していかないといけないなと思いました。アメリカと敵対するのではなく、手をつないでいこうとする平和学習を実践していけるように考えていきたいなと思いました。



今日はありがとうございました。小学校では、広島への修学旅行がある事もあり、平和学習は広島・長崎中心に今まで取り組んでいました。今年初めて沖縄へ行き、また今日のお話を聞いて、沖縄のことを子どもたちにもっと学ばせたら良かったなと感じました。6年生という枠ではなく、4年や5年生からも取り組んでいけるのではという思いも生まれました。また、その際には、相談にのっていただけるとうれしいです。